

---

# 神様のおもちゃ箱

仁科治

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

神様のおもちや箱

### 【Nコード】

N3725L

### 【作者名】

仁科治

### 【あらすじ】

こめかみから頬を伝った汗が落ちると、赤茶色の薄い紙は病んだ葉のように黒い染みを浮かせた。染みは文字や文になった。「裏切り」「無明」「罪」「生に意味はない」……。

？ー7 だれかが私の名前を呼んだ

？ー7 だれかが私の名前を呼んだ

私は、なぜ私と同じ年代にあるこの「僕」という男がこんな手紙で通信してくるのか考えてみた。私は気持ちのどこかで、「僕」が完全に人違いをしているのではないと思っていた。

私は、初めて「僕」から手紙を受け取った夜、こんな夢を見た。

竹ベラで赤土を削っていた。なぜ、そこでそんなことをしているのかわからなかった。

差し込んだ端からゆっくりとヘラを起こしてゆくと、紙のように土がめくれ上がってくる。それを丁寧一枚一枚、苔の生えた岩の上に並べる。

緑色の苔に茶色の縞模様が広がっていく。

こめかみから頬を伝った汗が落ちると、赤茶色の薄い紙は病んだ葉のように黒い染みを浮かせた。染みは文字や文になった。「裏切り」「無明」「罪」「生に意味はない」……。

額が熱い。夕焼けが正面から私の体を朱色に染めていた。

私は、小さな黒い染みになっていく。もうすぐ、だれかが私の名前を呼ぶだろう。指先は硬くなり始めている。息苦しい。私はだれかが来るのを待っていた。

そこで、思いっきり体を叩かれたように目が覚めた。

心臓はもの凄い勢いで高鳴っている。私の名を呼んだような響きが耳の奥に残っている感じがする。だれだったのか。

全身に力が入らない。

ぼんやりと明かるい。闇から吐きだされているような弱い明かりだ。傍らで妻のときどき途切れるような寝息がもれていた。

私は、目を閉じのまま、反芻した。だれが私の名を呼び、そして私はだれを待っていたのだろうか。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3725/>

---

神様のおもちゃ箱

2011年1月27日08時36分発行